

竹生島は滋賀県琵琶湖の北部に浮かぶ島です。また、古くから弁財天、観音の信仰で知られる霊場でもあります。「神が居つくしま」なので「つくぶしま」から「ちくぶしま」となったとか。最近では万城目学『偉なるしゅららぼん』の小説や映画で竹生島を知った若い観光客も増えました。竹生島が文献に初めて現れるのは歴代天皇の年代記を書いた『帝王編年記』という書物で、夷服（伊吹）岳と浅井岳が高さを競い、浅井岳に負けた夷服岳が怒って浅井岳の頭をちよんぎったのが琵琶湖に落ちて竹生島になったというのです。ところがこのお話、JR長浜駅の観光案内所の方も、琵琶湖汽船のガイドの方も、長浜の書店で買った近江の昔話の本にも載っている、長浜の方なら誰でも知っているお話なのには驚きました。

京都からは、京都市営地下鉄、京阪京津線を乗りついで滋賀県の浜大津駅に向かいました。山科から四宮をとり逢坂山を抜ける、謡の道行ではお馴染みのこの街道ぞいを列車が走ります。浜大津駅前の大津港から琵琶湖汽船に乗り、長浜港まで2時間半の船旅「雪見クルーズ」を選びました。今でこそ琵琶湖畔を走る鉄道の旅が主流ですが、明治の初めのころ、日本海の敦賀駅から長浜駅までを列車で結び、長浜港からは船で大津港に向かうというルートがあったそうです。雪見クルーズの船上から、唐崎の松や堅田の浮御堂を眺め、雪を頂く比良山系を望み、琵琶湖周辺の名勝、近江八景（比良暮雪・堅田落雁・矢橋帰帆・栗津晴嵐・唐崎夜雨・三井晚鐘・瀬田夕照・石山秋月）の景色を楽しみました。舟の旅ならではの。湖北長浜港からは小型船に乗りついでようやく目指す竹生島へ。

竹生島は周囲2キロほどの花崗岩でできた島です。小型船が数隻接岸できるだけの小さな竹生島港ですが、棧橋の目の前がすでに宝厳寺と都久夫須麻神社の参道です。弁財天を祀る宝厳寺境内には現存する七基の鎌倉時代の五輪の塔のうちの一基や、観音堂などがあります。また、都久夫須麻神社の国宝の本殿には市杵島姫大神が祀られ、立札には、厳島、江ノ島、竹生島の三大弁財天のうちでも特に竹生島は「大弁財天」と呼ばれていると書かれていました。木曾義仲の追討の途中、竹生島参詣に立ち寄った平経正が、この島で琵琶を奏で、その音色に感じて龍神が姿を現わしたという『平家物語』『竹生島詣』の話が有名ですが、経正の他にも足利尊氏、織田信長、浅井長政、豊臣秀吉など多くの武将の信仰を集めました。現在も竹生島の参集殿では、戦国武将たちが奉納した仏像や寄進状などが展示されています。竹生島の弁財天は8本の腕（八臂）に宝珠や剣などをもち、頭には白蛇を頂いています。現世利益、福德増長の靈験を約束する竹生島の「宇賀神辯才天」は、私たちが抱く琵琶を奏でる嫺やかな弁財天とは違い、美しい女体でありながら、威風堂々、神々しさと凛とした風貌の神でもありました。竹生島は小書き「女体」に相応しく、弁財天信仰の島なのだと感じました。

平成二十七年如月吉日

←長浜港から竹生島行の小型船。  
↓琵琶湖上に突然姿を見せる4つの巨岩「沖の白石」。



↑伊吹山  
→竹生島港の棧橋は、すでに宝厳寺、都久夫須麻神社の参道  
↓宝厳寺



↑都久夫須麻神社。市杵島姫大神、宇賀神、浅井姫命を祀る  
←都久夫須麻神社と向い合せて「八大竜王拝所」がある  
↓「八大竜王拝所」より琵琶湖を望む。正面には伊吹山が見える。

